

全国上位へ大学と連携も

次代に託す

①「2勝」の壁

8月の甲子園で佐久長聖が延長十四回の末に旭川大（北北海道）を破った1回戦のウイニングボールは、球場内の甲子園歴史館に寄贈され、特別展示中だ（来年1月20日まで）。

春夏の甲子園大会で今年導入された「タイブレーク制」。出場選手への健康面の配慮から、

十三回以降は無死一、二塁で攻撃に入り、得点しやすくする。初めて適用された試合の勝者となり、「1000回大会に出場できたらうえ、歴史に校名を残せるのは光栄です」と藤原弘介監督。劣勢が続いても我慢を重ね、5-4の粘り勝ちだった。

だが、「2勝以上」の目標を掲げながら2回戦は高岡商（富山）に4-5。今度は1点差に泣いた。

長聖は長野大会の6試合で、準決勝と決勝を除いて大差で勝った。チーム打率3割9分9厘、三振はわずか3個だったのが、甲子園の2試合で2割7分

3厘、16三振。藤原監督は「守備は良かったが、全国レベルの投手を相手にした打撃に課題が残った」という。

県高野連の元会長で春夏の甲子園では試合運営にあたる本部委員の小林善一さんは長聖について「2、3勝できる戦力だった。上位進出するチームの雰囲気も持っていた」と評価。不足していた要素としては、甲子園のスピードディーな試合運びに対応する力、好投手の攻略に欠かせないバントの正確さ、一部の選手の体調管理などを挙げる。

| 年 | 代表校 | ① | ② | ③ |
|------|-------|---|---|---|
| 1999 | 松商学園 | ● | ● | ● |
| 2000 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 01 | 塚原青雲 | ○ | ○ | ○ |
| 02 | 佐久長聖 | ○ | ○ | ○ |
| 03 | 長野工芸 | ● | ● | ● |
| 04 | 塚原青雲 | ● | ● | ● |
| 05 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 06 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 07 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 08 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 09 | 長野日大 | ○ | ○ | ○ |
| 10 | 松本工 | ○ | ○ | ○ |
| 11 | 都市大塩尻 | ○ | ○ | ○ |
| 12 | 佐久長聖 | ○ | ○ | ○ |
| 13 | 上田西聖 | ○ | ○ | ○ |
| 14 | 佐久長聖 | ○ | ○ | ○ |
| 15 | 上田西聖 | ○ | ○ | ○ |
| 16 | 佐久長聖 | ○ | ○ | ○ |
| 17 | 松商学園 | ○ | ○ | ○ |
| 18 | 佐久長聖 | ○ | ○ | ○ |

最近20年の夏の甲子園勝敗

うち1校以上が突破した埼玉と大阪の「5大会連続」に次ぐ3位タイで、17年間に1勝だけだった1974、90年などの時代に比べれば格段の躍進といえる。

一方で、この初戦突破4度はいずれも1勝止まり。2009年の第91回大会で長野日大が優勝経験校の作新学院（栃木）と天理（奈良）に連勝したあと、「2勝」は県勢に立ちほだかる厚い壁となっている。

1回戦のあと試合日程が空き、今年の長聖は2回戦が1週間後だった。この間の調整も課題の一つ。

松商学園の元監督で、9年前に初出場の長野日大を率いた中原英孝・ウエルネス筑北監督は体験をもとに「高いモチベーションを維持しないと、1勝でホツとする空気が流れてしまう」と話す。長野日大は前年の選抜大会で2勝。「先輩たちを超えよう」とチーム内で声を掛けあい、士気を高めたという。

県高野連は24日、競技力の向上を目的に初めて企画した「強化練習会」を松本大学（松本市）で開いた。昨年までの指導者向け講習会に代わる強化策

高校野球は夏の甲子園が第100回記念大会の歴史を刻み、長野代表の佐久長聖は1勝を挙げた。甲子園の盛り上がり一方で子ども野球離れが進み、普及や育成に向けた努力が続いている。今年の野球シーズンを振り返り、見えてきた課題や将来性を探った。

（山田雄一）



延長十三回、タイブレーク用の走者として一塁に向かう佐久長聖の北畑玲央選手（左下）＝8月6日、阪神甲子園球場



第91回大会で2勝目を挙げて喜び合う長野日大チーム。相手は天理だった。2009年8月、阪神甲子園球場

公立の奮起 底上げの鍵

次代に託す

②同じ土俵で

1ムと相次ぎ対戦。引退セレモニーでは、7月の長野大会開会式で選手宣誓した小林泰輝・前主将が充実の部活動を振り返り、「多くの支えのおかげです」と感謝した。

諏訪湖に面した岡谷南のグラウンドで18日、野球部恒例の納会試合があった。3年生チームが、1、2年生チームやOBチームと相次ぎ対戦。引退セレモニーでは、7月の長野大会開会式で選手宣誓した小林泰輝・前主将が充実の部活動を振り返り、「多くの支えのおかげです」と感謝した。

この夏の甲子園は大阪桐蔭が制した。2度目の春夏連覇という快挙に劣らぬ注目を浴びたのが準優勝の金足農（秋田）。私学勢が上位を占める傾向のなか、公立校の決勝進出は200

7年の第89回大会で初優勝の佐賀北以来だった。

その1カ月前、長野大会で公立旋風を起こしたのが岡谷南だ。5戦目の準々決勝で、前年代表校の松商学園に6-3で快勝した。29年ぶりの準決勝では、代表校となる佐久長聖を相手に先制し、3-6と善戦。3度目の決勝進出こそ果たせなかったが、ひたむきな試合ぶりに共感の輪が広がった。

岡谷南に限らず、今年は公立勢の活躍が目を引いた。春の県大会上位校に与えられる夏の長野大会シード権。公立勢は松本深志、諏訪二葉、伊那弥生ヶ丘がAシード（8校）に入り、今年導入された春16強のBシードでは小諸商が夏の8強に勝ち上がった。岡谷南と同じノース1ドの中野立志館、上田、小諸、中野西は夏16強に食い込んだ。

■戦後夏の甲子園の公立代表校

- 松本市立中・松本市立（1946、49）
- 松本中（47）
- 穂高農（48）
- 伊那北（55、56、61）
- 上田松尾・上田（57、87）
- 赤穂（60）
- 長野（62）
- 丸子実（65、72、73、82、85、89、90）
- 岡谷工（68、81）
- 須坂園芸（70）
- 須坂商（71）
- 野沢北（74）
- 長野商（83）
- 篠ノ井（84）
- 上田東（88）
- 長野工（2003）
- 松代（06）
- 松本工（10）

カッコ内の数字は代表年。
松本市立中・松本市立は現在の松本美須ヶ丘、松本中は松本深志、穂高農は穂高商、丸子実は丸子修学館、須坂園芸と須坂商は須坂創成。

閉会式で山崎宏・県高野連会長は、佐久長聖と上田西の決勝対決をたたえたあと、公立勢の健闘にエールを送った。

ただし、県の頂点となると、公立校がきわめるのは容易でないのが実情だ。

夏の決勝進出は2014年の長野商が直近で、代表校は10年の松本工までさかのぼる。2000年以降で見ても、公立勢は03年の長野工、06年の松代と合わせて3校のみとなっている。

かつては、必ずしも私学優位とは限らなかった。夏の出場回数が全国2位の36回を数える松商学園の存在感は群を抜くものの、65年から通算7回出場の子実（現丸子修学館）を筆頭に、「打倒私学」を掲げた公立校が相次いで甲子園へ名乗りを上げていた。

強豪私学に有望選手が集まる流れは昔からあり、チーム環境の違いも否めない。秋田などのように県当局が率先して進める高校野球強化計画も、現状では見込めない。指導現場で「私学には歯が立ちません」と弱音を聞くこともある。

強豪私学に有望選手が集まる流れは昔からあり、チーム環境の違いも否めない。秋田などのように県当局が率先して進める高校野球強化計画も、現状では見込めない。指導現場で「私学には歯が立ちません」と弱音を聞くこともある。

「圧倒的に校数の多い公立が奮起しないと、県全体のレベルは上がっていきません」と倉坪監督。底上げの鍵は公立校が握っている、ともいえそうだ。

（山田雄一）



岡谷南の納会試合で記念のトロフィーを贈られ、あいさつをする3年生代表の小林泰輝・前主将（中央）=18日、岡谷市



第92回大会の開幕試合で敗れ、土を集める松本工の選手たち=2010年8月、阪神甲子園球場

面白さ遊び感覚で知って

次代に託す

③野球離れ

「野球に無縁だった子ども大歓迎、と参加を呼びかけました」。中学校教諭で、主催した県青少年野球協議会北信地区協議会の地区長を務める斎藤貴弘さん(33)は催しの狙いを語る。

「野球に無縁だった子ども大歓迎、と参加を呼びかけました」。中学校教諭で、主催した県青少年野球協議会北信地区協議会の地区長を務める斎藤貴弘さん(33)は催しの狙いを語る。

県青少年野球協議会によると、県内の高校野球登録者(硬式、5月末現在で集計)は2015年度の3657人をピークに徐々に減少。今年度は3114人で、3年前と比べて15%減った。小学生を含めると減少ぶりはさらに深刻。県青少年野球協議会のまとめによると、今年度の県内の小中高校生の野球人口は1万

276人で、データのあたる8年前に比べて5399人減った(34%減)。小中高校生の競技人口トップの座は、14年度にバスケットボール、15年度にはサッカーにも抜かれ、現在は第3位となっている。

野球離れの原因については、関係者の多くが「野球は特別なスポーツ、という意識が災いした」と指摘する。かつてプロ野球を頂点とする野球人気は抜群で、放っておいてもチームはでき、運動能力の高い子が入ってくる――。そんな強気な態度が野球界では一般的だった。しかし、他の競技への注目度が高まるにつれて、野球は普及活動で後れを取り、その結果が減少に

つながったとみられる。そうした反省をもとに企画され、昨年に続いて開かれたのが冒頭のイベントだ。「野球の面白さを知らないまま大きくなる子が増えている。知ってもらうには、遊び感覚から始める必要がある。『上から目線』は、もう通用しません」と斎藤さん。野球界では画期的ともいえる目線の低さで子どもたちに接する感覚は、野球人気にかげりが生じてきた時代に育った、若手指導者たちならではの柔軟さ、とも言えそうだ。

22日に長野市であった県青少年野球協議会の役員会では、中信地区などでも北信地区と同様の「野球の日」計画が進んでいることが報告された。

併せて、なり手不足が課題となっている審判研修やスコアの付け方教室、指導者によるパワーハラの撲滅、けがの予防、やる気を起こさせる指導法などの実践や計画についても議論した。野球人口の増加を図る継続的な取り組みが広がっている。

協議会は設立2年目の昨年度、長期目標を決めた。それから5年後にあたる2022年度にめざすのは、小中高校球児の「競技人口減少が止まっている」。そして、10年後にあたる27年度をめどに「上向きに転じている」をターゲットとした。協議会の飯島昭久事務局長(県高野連理事)は「厳しい目標設定」と認めた上で、「野球界の力を結集していきたい」と話している。

(山田雄一)

高校やプロ野球の公式戦会場にもなる、ファンあこがれの長野オリンピックスタジアム(長野市)が25日、1400人の小学生や幼児でにぎわった。人工芝グラウンドなどで開かれていたのは、「北信野球の日」と銘打った野球に親しむイベント。軟らかいボールを使って投げたり、打ったり、ミニゲームなども。高校と中学の野球部員が案内役を務め、独立リーグの信濃グランセローズや、社会人の信越硬式野球クラブの選手たちが模範実技を披露。「オ

- 県青少年野球協議会の加盟8団体
- ・県高校野球連盟
 - ・県中学校体育連盟軟式野球専門部
 - ・日本リトルシニア中学硬式野球協会信越連盟
 - ・日本リトルリーグ野球協会信越連盟
 - ・日本少年野球連盟ボーイズリーグ県支部
 - ・県軟式野球連盟
 - ・県スポーツ少年団
 - ・きずなティーボールスマイル長野



「北信野球の日」でキャッチボールを楽しむ小学生の姉弟。父親と3人組だ。25日、長野オリンピックスタジアム



県青少年野球協議会が主催した第2回県ベースボールサミット。この日の主題は少年野球の指導法だった。1月28日、安曇野市

元球児や女子普及の機運



4 新しい風

「ピンチはチャンス」。スポーツ現場でしばしば語られる格言を地で行く動きが、今年

は県内の野球界で具体化した。マスターズ甲子園での開花、そして女子野球の芽生えだ。

11月11日、秋晴れの阪神甲子園球場。元高校球児たちが夢舞台で親善試合をする第15回マスターズ甲子園で、県選抜チームは初陣を飾った。

「最高のチームになりました」と松商学園OBで選手兼任の深沢友和監督(42)。18と66歳の選手50人には、満面の笑みあり、感激の涙あり。「秋の甲子園」に達成感があふれた。

本大会には、予選で優勝の単独チームがそのまま参加することが多い。だが、県高校野球OB連盟は「初回は選抜チーム」とこだわった。

理由は、昨年1月に県青少年野球協議会が開いた第1回県ベースボールサミットにある。6年間で県内の小中高校生の野球人口が3割も減ったと発表され、衝撃が走った。

「このままでは長野県の野球はつぶれてしまう。手を打たないと」。池口良明・現会長(松

本深志OB会長)らが中心となり、OB連盟を設立した。基本テーマは「野球再生」。目標に向け、「多くの高校球児OBに立ち上がってもらおう求心力」と位置づけたのがマスターズ挑戦だ。そのため、県予選参加の全25チームから選手を派遣してもらおう選抜方式を採用した。

「聖地」体験を各地に還元してほしいという願いは実現しつつある。「マスターズ甲子園1期生」の間で、すでにメールやLINEのやり取りが盛んだ。「特別な球場」「皆、18歳に戻った」「野球の原点『楽しくプレー』を再確認」「あの感動を野球界のために役立てる」。持ち帰った土を母校グラウンドにまいたチームも複数ある。

元球児への期待は、例えば、指導面での貢献。学校の部活動は先生たちの働き方改革の推進に伴い、指導者不足が懸念される。それを野球経験者が補うのは現実的な取り組みといえる。

10月、県選抜チームの壮行試合(松本市野球場)で対戦相手にOB連盟が招いたのが全日本女子野球連盟の関東選抜チームだ。女子選手による少女野球教室も開いた。受講者が受けた刺激は大きかったという。

元球児への期待は、例えば、指導面での貢献。学校の部活動は先生たちの働き方改革の推進に伴い、指導者不足が懸念される。それを野球経験者が補うのは現実的な取り組みといえる。

11月25日、長野オリンピックスタジアムでの「北信野球の日」。ユニホーム姿の2人の女子中学生が話を弾ませていた。ともに2年生で軟式野球部員の長瀬莉乃さん(飯山市)と市川和花奈さん(長野市)。初対面で意気投合した。共通の関心

県青少年野球協議会は今年、女子普及委員会を発足させ、私立高校に女子野球部の創設を働きかける方針だ。最近では、男子選手限定の現在の高校野球に女子選手の参加も認めてほしいという混合化の動きよりも、女子高校野球の確立機運が目立つ。全国のチーム数も27校に増え、「第2の坂原」が育つ環境が整いつつある。

マスターズと女子野球。この競技を未来につなぐ新しい風が吹き始めている。(山田雄一)



マスターズ甲子園で本塁盗塁を決めてベンチに戻った選手を迎え入れる県選抜チーム。盛り上がりはピークに達した=11月11日、阪神甲子園球場



初めて開かれた「少女野球教室」で社会人の女子選手から守備の指導を受ける中学生たち=10月28日、松本第一高校雨天練習場

第100回全国高校野球選手権記念大会を巡る一連の連載は今回で終わります。